

# 外 国 語

## 『英語（リーディング）』

### 第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

#### 1 前文

令和8年度共通テスト（以下「本テスト」という。）の『英語（リーディング）』の受験者は、本試験が455,114人（昨年度は453,668人）で、受験者全体の約98.2%（昨年度は約98.3%）に当たる。本試験の平均点は62.81点（昨年度は57.69点）であった。

本テストの問題作成方針では、平成30年告示の学習指導要領を踏まえて、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて必要な理解力を「リーディング」形式の問題を通して測るとともに、それを通してコミュニケーションを支える知識や技能についても測り、総合的な英語力を評価することをねらいとしている。

これらのことを踏まえ、本試験の問題について、15ページに記載の8項目の観点により、総合的に検討した。

#### 2 内容・範囲

本テストは、受験者が高等学校での外国語の授業（「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」「論理・表現Ⅰ」等）で学ぶ内容・範囲を網羅しており、「リーディング」形式を通して高等学校段階で身に付けた総合的な英語力を測るものとしておおむね適切であった。日常的な話題から科学的な話題まで幅広く取り上げられており、実際のコミュニケーションにおいて英語を運用する力を測ることができるように配慮されている。場面や状況の設定も受験者が想像しやすいようおおむね工夫されており、学習指導要領で求められる、「主体的・対話的で深い学び」を経験してきた受験者が、高等学校段階で学習した語彙や文法の正しい知識を基に、コミュニケーションの目的に応じて英文を読み、思考力・判断力・表現力等を発揮しながら概要や要点を捉えたり、情報を活用して推測したり再構築したりする内容となっている。

第1問 メッセージのやり取りを読み、内容を理解した上で目的に応じて必要な情報を適切に読み取る力が問われている。

第2問 複数の数値がまとめられたテキストから情報を適切に読み取る力や、読み取った情報を基に推論する力、事実と意見を区別して読み取る力が問われている。

第3問 一人称視点の物語を読み、状況を正確に読み取る力や、語り手が得た教訓を適切に読み取る力が問われている。

第4問 ニュースレターの原稿とそれに対するクラブの指導者からのコメントを読み、結束性や一貫性を高めるよう推敲する力が問われている。「書くこと」を意識した出題である。

第5問 チラシと応募フォーム及び返信メールを読み、要点を適切に読み取る力や、情報検索力、得られた情報を基に適切に推論する力が問われている。

第6問 三人称視点の物語を読み、場面の前後関係や登場人物の状況・人物像・関係性を正確に読み取る力、要点を読み取る力が問われている。

第7問 科学的な文章を読み、情報を正確に読み取り、要点を発表形式にまとめ、得られた情報を基

に適切に類推する力が問われている。

第8問 対立点を含む複数の意見を読み、そこから得られた情報を整理・比較しながら共通点を正確に読み取る力や抽象化する力が問われている。図表を含む複数の資料から読み取った内容に基づき、自分の考えを作文の構想メモとしてまとめる構成となっている。

### 3 分量・程度

出題範囲としている科目の目標及び内容等に対応したものとなるよう、教科書で用いられる英文の分量・難易度に準じた問題文を扱っている。各大問においては様々な難易度の設問がバランス良く配置されている。設問数は昨年度と同様であった。

第1問 約200語で3つの設問。メッセージのやり取り全体としては適切な分量だが、現実的なやり取りとして考えると一人一人の1回あたりの発話量が多い。難易度は第1問として適切である。問2では、誤答である③のイラストで“take off the check shirts to show black tank tops inside”で表される状態がどの程度なのかと判断に迷った可能性があり、受験者にとって難易度が高かった。

第2問 約280語で4つの設問。大学の学生寮に関する調査結果が簡潔にまとめられており読みやすい。設問の難易度は全体としては標準的である。問1では注意深く読めば正答にたどり着けるものの、選択肢に示されているパラフレーズされた表現を理解する必要があり、識別力が高かった。

第3問 約300語で3つの設問。経験したことについて述べた英文で、難易度や分量は適切である。問3は、本文の内容に応じて語彙の知識を問う問題であり、識別力が高かった。

第4問 約310語で4つの設問。ニューズレターを推敲する形式であり、英文の分量は適切である。難易度は低い。問4では全体の要約が求められており論理的な文章構成を踏まえながら解答する必要があった。

第5問 約590語で5つの設問。異なるタイプの3種類のテキストから構成されており、難易度は標準的である。設問は昨年度の3ページから2ページに整理された。複数のテキストから読み取った情報を統合したり、設問で言い換えられた表現を理解することが求められたりしており、全体的に識別力が高い良問だった。

第6問 約700語で4つの設問。登場人物間の関係性を読み取る必要があるが、出来事がほぼ時系列に沿って述べられており、英文の分量、難易度は適切であった。問1は、①にあるrudeが受験者にとって本文の内容と結び付きづらく、難易度の高い問題となったと思われる。

第7問 約620語で5つの設問。分量、難易度共に第7問として適切である。科学的な内容に応じてやや難度の高い語句も用いられているが、題材の性質上、適切である。問1においては、本文中で述べられているmind-wanderingの定義を、「mind-wanderingがいつ生じるか」として捉え直さなければならず、正確な理解が求められた。問5では、本文の内容を正しく理解した上で推論する思考力が求められており、良問であった。

第8問 約670語で5つの設問。大問としての分量は多いがテキストと設問がバランスよく配置されている。テキスト、メモ、図表から情報を読み取って整理する必要があり、思考力を測る上で適切な設問、難易度であった。問4はテキストから賛成の立場をとる理由を整理し、パラフレーズされた選択肢と照らし合わせなければならず、受験者は判断に迷ったと思われる。

### 4 表現・形式

学習指導要領の趣旨に沿って、実際的なコミュニケーションにおいて話し手や書き手の意図や概要・要点を的確に理解する力を測る、適切な場面・状況が設定されている。出題されたテキストの

ジャンルは多岐にわたり、イギリス英語の表記が用いられるなど英語の多様性にも配慮がある。文章表現・用語や図表・イラストはおおむね適切かつ効果的に使用されている。配点も適切である。

第1問 ダンスクラブのメンバーと、コンテストの衣装についてメッセージで意見を交わしているという場面設定。英語表現そのものは適切だが、カジュアルな場面に比して整いすぎた文体には違和感がある。

第2問 イギリスの大学への入学に際して大学構内での居住について、調査結果を大学ウェブサイト上で読んでいるという場面設定。英語表現は平明だが、場面を踏まえると、数値を示す表やグラフを付しても良かったのではないか。

第3問 英語の授業で短編物語を読むという場面設定。イラストが場面の理解を助けている。本文は物語文として標準的な構成で、設問もその構成を踏まえている。問1は内容理解を問うが、正答するには若干の推論が必要で消去法が求められる。本文中に根拠を明確に求めることができる設問づくりをお願いしたい。

第4問 英語クラブで発行するニューズレターの原稿について指導者のコメントを受け改稿するという場面設定。本文で箇条書きや表にまとめるのが自然な内容を文章記述にしており、ニューズレターという媒体においては不自然であり、指導者のコメントもニューズレターの校閲ではなく作文の指導のようで場面にそぐわない。また、高校生が書いている未完成原稿という設定から、本文には設問に関わらない部分でも未熟な点が含まれている。そうした箇所について、設問には含めないコメントを付すこともできるのではないか。

第5問 イギリスの図書館における絵本の推薦とボランティアを募るチラシを読み、フォームに記入した後、図書館からメールの返信があったという場面設定。レイアウトは各資料が読みやすいように工夫されている。設問は場面を踏まえており、おおむね適切であるが、問3のDはこの場面において本質的な情報とは言えず、設問において読み取りを求めることが適切であったかには疑問が残る。

第6問 英語の授業で物語文を読み、発表のために要点を整理するという場面設定。物語は場面が想像しやすく、設問も基礎的な読解力を問うもので、おおむね適切である。問4は本文の具体的な描写を抽象化して捉えることを求めており、文章の性質に即した思考力を問う工夫のある出題と言える。

第7問 mind-wanderingに関する文章を読み、授業での発表資料を準備しているという場面設定。個々の情報の関係性を整理しながら読むことを求める文章で、設問はその要点の把握を求める適切なものである。問5は読解を基に判断する設問で、実際の思考力を測っている。

第8問 スポーツとテクノロジーというテーマについて異なる意見を読み、異同を整理した上で自らの立場を決め、資料に基づき意見文を書くという場面設定。視点に応じた情報の適切な読解を求めている。問5はグラフの的確な理解を求めており、資料の性質に沿った適切な出題である。

## 5 まとめ（総括的な評価）

昨年度、大きく変更された問題形式、分量をおおむね踏襲して作成された本試験は、平成30年告示の学習指導要領を踏まえた試験として妥当であった。高等学校において、「聞くこと」・「読むこと」・「話すこと [やり取り], [発表]」・「書くこと」を統合した英語での言語活動を通じて育成された知識・技能、思考力・判断力・表現力等を様々な方法で測るべく、多様な問題が設定された。使用語彙や英文構造の複雑さ、選択肢の英語の分量を調節しながら、大問や設問ごとにCEFRのA1からB1相当のレベルまで難易度を設定していることがうかがえ、幅広い受験者に対応できる問題構成であったと考えられる。また、より適切な評価のために新たに追加された更なる試みも評価する。問題作成に

当たられる方々の努力に心からの敬意を表す。ただし、一方で目的、場面・設定が不自然に感じられる設問もあった。実際の言語使用をより適切に踏まえた出題をお願いしたい。

設問の設計については、全体を通じて問題作成方針に則しており、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解する力を「リーディング」形式の問題を通して測るとともに、それらの力を問うことを通して、コミュニケーションを支える基盤となる語彙や表現、文法等に関する知識や技能についても測り、受験者の読むスピードだけでなく総合的な英語力を評価するテストとして適切であった。各設問の選択肢に関して、明確な根拠を持って解答できるようにおおむね作られており、不必要に受験者を迷わせず、適切に受験者の英語力を評価できるものであったと言える。ただし、一部の設問において本質的な問いとは言い難いものも見られたことから、英文の内容や目的、場面に応じた必然性のある設問をお願いしたい。

題材については、高校生がこれまでに会った、若しくはこの先出会う可能性のある日常的な題材から科学的な題材、あるいは論争のある社会的な題材まで、幅広く取り上げられている。テキストの形式も、チラシやメッセージアプリでのやり取り、ウェブ上の文章など多岐にわたっており、様々な場面での英語力を測る工夫がなされている。また、タイプの違う物語文が2つ出題されるなど、論説文やメール文などの説明的文章や実用的文章に偏らない配慮がなされている。場面に応じてイギリス英語の表記が用いられるなど英語の多様性に対する配慮もある。ただし、第1問のような設定では、イラストの活用も含め場面に応じた表現を用いることで、より実際の英語使用に近い設定とすることを目指していただきたい。また第4問の場面設定においてニューズレターの未完成原稿を題材とするのはやや無理があるように思われる。

出題の内容や形式については、昨年度に引き続き目的に応じた情報の読み取りや概要・要点の把握、事実と意見の区別、文章と図表との複合的読み取り、作文の改稿や複数の情報源を基に自分の考えをまとめる設定の出題があった。本年度は新たに文章の論理的構成、文と文の結束性を問う出題もあった。総合的な英語力を評価するという視点からの工夫が引き続き見られた。

大問ごとに実際のコミュニケーションを想定した目的や場面、状況が設定されるとともに、高等学校における「主体的・対話的で深い学び」を志向した授業における学習過程に配慮されている。特に複数の技能を統合した言語活動、中でも発信につなげることを意識した設問や、英文中に見られるようなより自然な英語表現などからは、授業改善に向けたメッセージ性も感じられる。ただし、物語文に関して、高等学校教育への波及効果を期待するならば、読み方に関してもう少し専門的なフレームワークを示すなど検討をお願いしたい。

体裁については、全体的に受験者が取り組みやすいレイアウトとなるように配慮がなされている。イラストについても英文理解を効果的に補助するものとなっている。ただし、選択肢として使用するイラストは、受験者を必要以上に迷わせないものを選択していただきたい。

全体としては、本年度の出題は上述のとおりおおむね適切であったと言える。来年度以降も、更なる改善を志向しつつ、引き続き安定して適切な出題がなされることをお願いしたい。